

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：下保 修

事業名 一般国道354号 高崎玉村バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 群馬県										
起終点 起点：高崎市綿貫町地内 終点：佐波郡玉村町大字福島地内		延長 5.3km										
事業概要 一般国道354号高崎玉村バイパスは、群馬県高崎市～群馬県板倉町に至る延長約58.6kmの「東毛広域幹線道路」の一部を形成し、一般国道354号の玉村町内の混雑解消を目的とした4車線（暫定2車線）バイパス事業である。												
H5年度事業化	S62年度都市計画決定 (H5年度変更)	H6年度用地着手										
		H10年度工事着手										
全体事業費	190億円	事業進捗率 67%										
計画交通量	21,300台/日	供用済延長 2.0km										
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">B/C (事業全体)</td> <td style="width: 15%;">3.9</td> <td style="width: 15%;">総費用 (残事業)/(事業全体) 53/219億円</td> <td style="width: 15%;">総便益 (残事業)/(事業全体) 195/860億円</td> <td style="width: 15%;">基準年 平成19年</td> </tr> <tr> <td>(残事業)</td> <td>3.7</td> <td> 事業費：51/215億円 維持管理費：3.0/4.0億円 </td> <td> 走行時間短縮便益：175/841億円 走行経費減少便益：16/19億円 交通事故減少便益：4.0/0.00億円 </td> <td></td> </tr> </table>	B/C (事業全体)	3.9	総費用 (残事業)/ (事業全体) 53/219億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 195/860億円	基準年 平成19年	(残事業)	3.7	事業費：51/215億円 維持管理費：3.0/4.0億円	走行時間短縮便益：175/841億円 走行経費減少便益：16/19億円 交通事故減少便益：4.0/0.00億円		
B/C (事業全体)	3.9	総費用 (残事業)/ (事業全体) 53/219億円	総便益 (残事業)/ (事業全体) 195/860億円	基準年 平成19年								
(残事業)	3.7	事業費：51/215億円 維持管理費：3.0/4.0億円	走行時間短縮便益：175/841億円 走行経費減少便益：16/19億円 交通事故減少便益：4.0/0.00億円									
感度分析の結果 分析無し												
事業の効果等 本バイパスの開通により、JR高崎駅から玉村町までが直結することにより、走行時間の短縮が期待される。物流の効率化、生活圏の拡大など、地域の発展に果たす役割は極めて大きい。												
関係する地方公共団体等の意見 関係市町村で構成する東毛広域幹線道路建設促進連絡協議会より、毎年、建設促進の要望が出されている。本年は、平成19年8月21日に群馬県に要望があった。												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 特になし												
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成18年3月までに玉村町内2.02kmについて供用開始（暫定2車線）した。今後は、残区間3.3kmについて、用地買収、埋蔵文化財調査、工事の推進を図る予定である。												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 玉村町内の用地買収は、ほぼ完了している。今後は、高崎市内の用地買収を重点的に推進する予定である。												
施設の構造や工法の変更等 (仮)井野川橋梁前後の高架構造を見直し、コスト縮減に努める。												
対応方針 事業継続												
対応方針決定の理由 県央部と県東部の連携強化を図る東毛広域幹線道路の整備促進は重要であり、地元の期待も大きい。その一部区間である本バイパスは、その必要性が現在でも非常に高い。												
事業概要図												

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。